



Sapporo Gakuin University

学園広報

1999. 12. 10 No.74

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地
電話 (011) 386-8111
http://www.sgu.ac.jp

本学では、五月三十一日 学科の入学定員は二〇〇名、
付けて文部大臣に対し、「大 学部部英語英米文学科の入学
学の期間を付した入学定員 定員は七〇名になり、大学全
(臨時)の廃止に伴う収容定 体の収容定員では、以前にも増
員の増加に 係る学則変 更を申請 しておりま したが、こ の度、七月 二十八日付けをもって認可さ れました。

人文学部 収容定員増認可

環境整備
英語英米文学科 半期海外留学制度を導入

このように、今後、両学科における志願者の増加に大きな期待が寄せられています。



平成12年4月 開設予定 認可申請中

箱庭療法や遊戯療法を行うプレイルーム

全国初 大学院臨床心理学研究科を増設

臨床心理士の育成をめざして

本学では、平成十二年四月開設に向けて大学院臨床心理学研究科(修士課程)入学定員十名の設置認可を申請中である。設置が認可された場合には、全国で最初の「臨床心理学研究科」を称する大学院となる。

周知のように、変化の著しい今日の社会では、心に関わる問題が山積している。特に子どもにおける心の問題の増加とその複雑化はまことに憂慮すべき状況にある。学校現場における心の問題の深刻化に対して、文部省では、平成七年度から、特定の学校にスクールカウンセラーを派遣する事業(「スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」)を試験的に導入している。この事業は当初の予想を越えた成果を挙げ、平成十三年度から制度化される見込みであるが、スクールカウンセラーとして活動する「臨床心理士の数の絶対的不足が本事業の隘路となっている。

BREAKTHROUGH 北海道の再生に向けて！

多彩な講師陣がズラリ

現在の北海道は、既存のシステムがほころびを見せはじめ、昏迷期に入ったようである。今までの考え方ややり方ではない新しい手法で、北海道を再生していくことが求められている。そうした解答を見出すために、「BREAKTHROUGH」北海道の再生に向けて、「共通テーマ」として、実務界の第一線で活躍される方々を、本学伊坂重孝理事長の尽力により講師としてお招きし、講演していただくことになった。

回数	月日	講師	テーマ
①	9/16(木)	マイクロソフト代表取締役社長 成毛 真	BREAK・THROUGH 新世界に向けて
②	9/30(木)	中和石油代表取締役社長 杉澤 達史	法と経済(独占禁止法について)
③	10/7(木)	ニセコ町長 達坂 誠二	時代の変極点と自治
④	10/14(木)	株式会社CWE代表取締役社長 作田 和幸	見えてきた21世紀の超高齢者社会、本道の場合は
⑤	10/21(木)	オホーツクビール代表取締役社長 水元 尚也	新たなビール及びフルーパブの開拓に向けて
⑥	10/28(木)	北海道国際航空機副社長 浜田 輝男	北海道をどう活性化させるのか～エア・ドゥの挑戦
⑦	11/4(木)	上智大学文芸部新聞学助教授 音 好宏	地域から見たデジタル・メディアの可能性と課題
⑧	11/11(木)	株式会社カノモト代表取締役社長 金本 寛中	グローバルスタンダードが企業革命を促す
⑨	11/18(木)	株式会社ラルズ代表取締役社長 横山 清	デフレ時代は生活革命!
⑩	12/2(木)	サイバートラスト代表取締役社長 川島 昭彦	ネットワークセキュリティ技術の現状と今後(電子認証をベースとした)
⑪	12/9(木)	株式会社北海道新聞社 論説主幹 柏木 榮	公依存からの脱却と地方分権
⑫	12/16(木)	北海道旅客鉄道代表取締役社長 坂本 眞一	21世紀を見据えた鉄道事業の方向と展望

民間企業の視点および行政側の視点からも議論された。そして、これからの北海道に必要不可欠と思われる道産子のベンチャースピリッツを示したてくれた経営者の方々のお話は、学生の心に強く訴えたのではないかと考える。こうした議論を通じて、我々の生き大い、北海道の将来を真剣に考える機会を与えてくれた講師の方々に感謝をしたい。

2000(平成12)年度入試

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表
人文学部人間科学科	1月7日(金)～1月24日(月) 消印有効	2月8日(火)	本学旭川	2月22日(火)
法学部法律学科		2月9日(水)	帯広	
社会情報学部社会情報学科		青森		
商学部第一部商学科	2月21日(月)～3月1日(水) 消印有効	3月8日(水)	仙台	3月14日(火)
経済学部経済学科			大阪	
人文学部英語英米文学科				
商学部第二部商学科				

学部・学科	区分	出願期間	試験日	合格発表
商学部第一部商学科	前期	1月7日(金)～1月28日(金) 消印有効	本学独自の試験は課さない	2月22日(火)
経済学部経済学科				
人文学部人間科学科	後期	2月21日(月)～3月1日(水) 消印有効	本学独自の試験は課さない	3月14日(火)
人文学部英語英米文学科				
法学部法律学科				
社会情報学部社会情報学科				

中国人民大学と協定締結

教育・学術交流を推進



十月十三日、本学は中国人民大学(北京市)との間で、相互の友好を深め教育及び学術の交流を促進する目的で、大学間協定を締結した。

調印は中国人民大学で行われ、本学から狩野陽学長、宮町誠一国際交流センター長、稲村勲経済学部部長、金明哲社会情報学部教授、石田勲企画調査室長が、中国人民大学からは李文海学長、袁卫副学長、李明海学長が会談、「二一世紀」に向け姉妹校として今後相互に交流を盛んにし友好を深めて行くこと」を誓った。

中国人民大学は、一九三七年創立の社会科学系総合大学で、国家教育部直属の重点大学の一つである。現在十四の学部があり学生数九、〇〇〇名強を数え、その内、学部学生は五、〇〇〇名、大学院生が四、〇〇〇名、この他に通信・夜間生が七、〇〇〇名、外国人留学生五二〇名が在籍する。学部の一つである対外語言文化学院が中国語を学ぶ留学生を受け入れており、二二〇名が中国語の習得を目的として在籍している。

調印後、本学が寄贈した記念品を手にする中国人民大学・李文海学長(右)と狩野陽学長

外語言文化学院院长ら七名が出席。狩野陽学長、李文海学長が協定書に署名した。調印に先立ち狩野陽学長、李文海学長が会談、「二一世紀」に向け姉妹校として今後相互に交流を盛んにし友好を深めて行くこと」を誓った。

今回の協定締結により、二〇〇〇年度から本学学生が中国人民大学における中国語研修を実施する環境が整備された。また研究交流については、相互に具体的な目標を設定、積

極的に交流を推進し二〇〇一年度にも本学で「市場と国家」に関するシンポジウムを開催することでも合意、双方が協力し成功に向け努力することを確認し合った。

エセックス大学 留学レポート

パーティーは社交場

人文学部英語英米文学科3年 林 加奈子

これが、番留学生生活だと感じたこと、それはホームパーティーです。日本人に比べてイギリス人はパーティー好き、ちょっとしたことでも気軽に大勢の人が集まって食事、会話を楽しみ、またそこは新しい友達を作るちょっとした社交的な場でもあるのです。

私は五回パーティーを経験しましたが、友達との誕生日、テストの打ち上げなどその趣旨は様々です。みんなでささやかな料理を持ち寄って狭い寮のキッチンでおこなったパーティーは、どれも忘れられない思い出です。

これが、一番楽しい思い出です。その中でも私が特に感激したのは、私と青木さん(一緒に帰国した女子学生)二人のために開かれた送別会です。パーティーは七時からだったのに、もかわらず、みんなお昼から料理の支度を始め、日本、韓国、中国、インドネシアなど様々な国の料理が次々と並び、テーブルにはもうのせられなくなってしまうほどでした。三十人以上の人が来てくれて、私たち二人の挨拶が済むと、あんなにたくさんあったおいしい料理も一瞬のうちに消えてしまいました。その後、くだらないゲームで盛り上がり、ギターに合わせて無理矢理上がったりと一晩中大騒ぎ送別会での思い出のひとつ。先生、一番仲の良かった韓国人の友人等と共に、後列左端が筆者。



理ビートルズをみんなで歌ったり、くだらないゲームで盛り上がり、ギターに合わせて無理矢理上がったりと一晩中大騒ぎ送別会での思い出のひとつ。先生、一番仲の良かった韓国人の友人等と共に、後列左端が筆者。

本日は私たちが帰国する日、何人かの友達、空港までのバスに乗り込む直前までつきあってくれました。バスの中で読んだみんなからのメッセージカードに泣き止むことができず、周りの視線に恥かしい思いをしたのも今では良い思い出です。こんな素晴らしい思い出を作ってくれた友達は、この留学での最大の収穫であり、一生の財産です。そして、特別な場所、料理なんかなくても、こんなパーティーが気軽に楽しめるというこのイギリスの習慣が大好きです。

創立50周年

国際シンポジウムの全記録

『市場社会の警告』を出版

人間社会との共生の重要性を説く旧ソ連の生化学者ヨレ奥村宏(中央大学、過労死と背中合わせの会社人間を支える円高経済をえぐった佐々木洋(札幌学院大学)の三氏。これに対し、有機農法運動の宇佐美繁(宇都宮大学)、株主代表訴訟運動の森岡孝二(関西大学)、日本植民地支配の研究者の金洛年(韓国・東國大学校)日本協定校、男女共同参画型社会づくり運動の大沢真理(東京大学)の四氏が活発な論戦を挑んだ。

ス・メドベージェフ博士(英在在任)、人間の顔をした企業

海外レポート ドイツ

環境首都 フライブルクから

法学部教授 鈴木 敬夫

今年の四月から、ドイツのフライブルク大学「経済犯罪及び経済刑法研究所」で客員教授として、共同研究に参加しています。一四七七年に創立され、哲学者ハイデッカーが教鞭を執ったことでも知られているこの大学は、法学部と医学部を中心に十五の学部があり、学生数は三三、〇〇〇人(市の人口の約一〇%)、今日では「開発より美しい自然」を掲げて、ドイツの環境・自然保護、原子力安全政策

策を考える拠点校になっています。所属している経済刑法研究所では、スペイン、イタリア、スイス、フランス、ノルウェーなどの研究者が参加し、EU統合が着実に進むなかで発生する数カ国をまたぐ企業犯罪(手形・小切手の詐欺・租税犯罪・詐欺破産など)、多国籍企業による価格操作などがあります。市の自然環境保全政策には、たとえば、緑と野鳥の巣づくりのために、三月から九月まで市内の樹木を

許可なく伐採することの禁止、野外での殺虫剤の使用禁止などがあります。

また静かな環境を守るための自転車利用の奨励、特に騒音と省エネ、排気ガスに対処するため、市内への車の乗り入れを制限する一方、通勤・通学のための車の使用を電車やバスなど公共交通機関に乗り換えることを促す「環境保護特別時間帯乗車券」、さらにゴミ問題では、ビンや缶の分別収集は当然で、公的催しの際の使い捨て容器使用禁止など、さまざまな政策がみられます。そして、これらの政策をリードする環境意識の高い市民(団体)との出会いを求めて、日本はもとより世界各地から多くの人びとがこの町を訪れています。



市のシンボル、水路の流れでたわむれる子供たち

海外レポート イギリス

コレッジでの研究は愉快

経済学部教授 久保田 義弘

ロンドンのキングス・クロス駅から列車に乗り、丘陵地で草を食む羊や牛の群れを眺めていると、二時間余りでヨーク駅に着いた。そこからタクシーで十五分の所にヨーク

大学があった。ポーターに案内されたフラットは四十年前に建てられ、その設備も旧式であったが、意外に機能的である。ここに私は一年間客員研究員として滞在する。

ヨーク大学は一九六〇年代初めに創立された比較的新しい大学ではあるが、その評価は高く、全国で五位である。学生数は五、三〇〇人余りで札幌学院大学と同規模である。教員数はその三倍である。当然に教員の給料は低い。一年と三年の学部生は七つのコレッジのいずれかに所属することになっている。他学部生と渾然と同居することが学生の知的興味を広くしている。

私のフラットはグドリック・コレッジにあり、研究室はアルキン・コレッジにある。この二つは七分程の位置関係にあり、その途中に図書館がある。私の研究は空間的にはこの三方所を進められ、時間的には月曜日から金曜日の九時から六時までである。その内容は失業と不完全競争の関係を明らかにすることである。このアプローチは新ケインズ派と呼ばれる。この分野で第一線の活躍をしているディクソン教授に私はお世話になっている。

その手順は以下の三段階である。(一)教授が提供してくれた文献や私のリスト上の文献を読み、ノートを取り、コンピュータに入力し、(二)不完全競争下の賃金や価格の設定、賃金決定と失業の関係、さらに失業とインフレの関係を明確にし、(三)経験上の事実を照らし合せ、納得がいけばモデルを作る。現在は(三)の段階にいる。

土・日には、徒歩で三十分かけ、市街地に位置するマーケット&スペンサーで食料品を買う。物価は札幌と同じである。

市街地はローマ軍の要塞と植民地を基礎としている。そ

グドリック・コレッジ(フラット)の学習室にて。すべて単純であり、機能的である。



札幌学院大学 第23回学術講演会
講演と音楽の夕べ

息の合った演奏を披露した(左から)漆原啓子(ヴァイオリン)、小森谷裕子(ピアノ)、土田英順(チェロ)の各氏。円内は講演する城下裕二法学部教授。

第二十三回学術講演会「講演と音楽の夕べ」が十月一日(金)午後六時三十分から札幌共済ホールで開催された。当日は好天にも恵まれ、多くの市民、同窓生らが訪れた。開演とともに六五二席の会場が満席となり、立ち見も出る。息の合った演奏を披露した(左から)漆原啓子(ヴァイオリン)、小森谷裕子(ピアノ)、土田英順(チェロ)の各氏。円内は講演する城下裕二法学部教授。

「臓器移植法のゆくえ」会場を包む華麗なハーモニー
音楽は、「トリオの名曲」と題し、ピアノ小森谷裕子氏、ヴァイオリン漆原啓子氏、チェロ土田英順氏によるメンデルスゾーン「ピアノトリオ第一番」二短調 作品四九、ブラームス「ハンガリア舞曲第四番」ホ短調などが演奏され、聴衆は美しいハーモニーに心が和まされた様子であった。当日のアンケートからは、「講演・音楽ともに最高の夕べ」が堪能できた、と好意的な感想が多数寄せられた。

就職内定者から 後輩諸君へエール

超氷河期時代の奮戦記

私が公務員試験に合格するために重要だと感じたことは努力や根気、やる気の大切さでした。
しかし、それを持続させるには大変な苦労が伴います。例えば、学業と両立させなくてはならないこと。また試験科目は数多くあり、ある科目を勉強し終わっても、違う科目を勉強し終わる頃には勉強し終えたはずの科目は忘れてしまっている、この繰り返しです。これにどれだけ耐えて諦めずに勉強を続けることができるか、これが合格するための道だと思っています。
そんな中、私はやる気が無くなりかけると自分で作った二十冊以上の単語帳等を見て、「今までの努力を無駄にしないために頑張ろう」と投げ出すことなくやる気を出し、結果的にこのおかげで勉強し続けることができ、合格できたと思っています。
合格できるかどうかという不安や、やる気や自信が無くなる時は誰にでもあると思います。



北海道中級(一般行政) 最終合格
法学部法律学科4年 遠藤 巨

根気とやる気を 持続させよう

雇用不安が直撃し、ますます厳しさを増した今年の就職戦線。その中で、就職活動は自分の力を試せる絶好のチャンスととらえ、主体的に取り組み、内定を得た3人の学生に体験記を寄せてもらった。これから本番を迎える後輩学生もヒントにしてほしい。

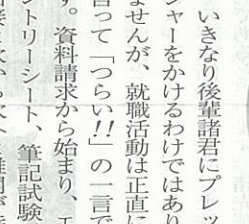
私の内定の決定要因が何であつたのか、正直なところ定かではありません。他の内定者はスポーツで素晴らしい実績を残していたりして、今でも自分が小さく思えることがあります。
しかし、そんな私が頑固にこだわっていたのが業種です。幼い頃から本が好きで、言葉が好きで、いつしか自分で本を書くようになりました。言葉に関わる仕事があつたのです。「文章は興味でどめておいたら」「広く色々な



小さな趣味から 内定の扉へ

岩橋印刷内定
人文学部人間科学科4年 宮崎亜希子
「私に文章を書く能力がどれ程あるかわかりません。ですが、説明会で最も私の文章に興味を持って下さった会社から、内定をいただくことができました。趣味で創った本が、内定のきっかけをつくつたのです。
一時的就職活動だけでなく入社後の生活を考えると、自分の持つ興味、自己表現の法と合った業種を選ぶことが重要です。それらが合っていれば、小さな趣味も自己表現の場となり、内定への扉をたたくことができます。」

いきなり後輩諸君にプレッシャーをかけるわけではありませんが、就職活動は正直に言って「つらい!!」の一言で資料請求から始まり、エントリーシート、筆記試験、面接と次から次へと難関が待ち受けています。しかし、これを苦痛ととるか、自分の為ととるかで大きな差になることは間違いないです。
就職活動を終えて、一番感じていたことは、就職活動が始める前の自分と終えてからの自分ではまったく違う自分になったことです。それは、就活活動を通して、自分自身を振り返り、自分の持ち味を見つけ、それに自信を持った



自分に自信を そして前向きに挑戦

エヌ・ティ・ティ北海道移動通信網
社会情報学部社会情報学科4年 本間 慎胤
九月二十五日(土)、台風十号の影響で大風が吹く中、約一〇〇名の父母の出席のもと、札幌圏での父母懇談会が五〇年記念館で開催された。今年度から、対象学年を二年次のみから一・三年次へ広げ、父母が参加しやすいよう土曜日の開催とした。
全体説明会では、本学の教育目標や大学での学修、学生生活、就職活動、成績表の見方について説明がなされた。続いて各学部の担当教員による個別面談に入った。個別面談担当者は対象学年との事前面接を踏まえ、成績表を参考にしながら、修学状況、学生生活、今後の対応についてのアドバイス等、父母と熱心な懇談を行った。「ゼミの先生が面談して下さり、子どもの学生生活が直に感じられた。親の目以外からの評価も得られ、貴重な時間でした」との感想もあった。



父母懇談会を開催 初の懇親会 父母同士の交流の輪も

就職相談コーナーでは希望者からの相談を受けた。今年度から対象学年を三年生にも広げたため、多くの父母が熱心に話し込む光景も。初めての試みとして、後援会主催の懇親会が六階食堂で催され、料理を手にする部員や同僚部の父母同士で懇談しながら、なごやかなうちに幕を閉じた。
アンケートによると、父母の八〇・九〇%が「満足である」と回答、特に個別面談では九五%が「満足」と高い評価を得ている。感想の中には、「最後に、就職活動を有効に進めていくためのアドバイスとして一言、使えるものは何でも使え!!」です。学内の友達に限らず、学外の友達の情報、インターネット、雑誌、先輩、そして、一番の情報源は就職課の方々です。どんなことでも気になったらすぐに訪ねてみましょう。」

打ち解けてなごやかに話し合う父母ら。懇親会会場。

北海道委託調査 『北海道と朝鮮人労働者』 刊行される

本書は太平洋戦争時における北海道の朝鮮人強制連行・労働の実態を明らかにするため、一九九五年四月より北海道から札幌学院大学に委託された調査の報告書である。
大学では人文学部の船津研究室に道内外の多数の歴史研究者が結集した調査班を設置して共同研究を推進させ、その成果が一九九九年三月、報告書として刊行された。
朝鮮人強制連行の実態調査は自治体としては全国最初の試みであり、北海道、全国にわたる資料調査が実施され、朝鮮半島をも視野に入れた分析がなされた。本文に加えて年表、資料等、A4判 六四〇ページ

- ### 教職員人事
- の本報告書は社会的、学問的に評価の高いものである。なお、本報告書は道の許諾(九九七〇)で販売されている。
- を得て札幌学院大学生活協同組合(〇二一―三三六―一七九七〇)で販売されている。
- ◎昇任
平成十一年五月二十一日付
教授 菅川 雅章(助教)
 - ◎退職
平成十一年六月三十日付
伊藤亜矢子(助教)
 - 平成十一年九月三十日付
高原 一隆(教授)
 - 是永 論(講師)
 - ◎死亡
平成十一年七月二十四日付
是永 純弘(教授)
 - ◎異動
平成十一年六月二十八日付
教授部学務課長
野中 正士(学生部就職課長
学生部就職課長
荒 憲一(教授部学務課長
教授部学務課
荒尾 昭一(教授部学務課)
 - ◎採用
平成十一年十月一日付
桜井 宏平
企画調査室企画調査課
元札幌テレビ放送(株)テレビ制作局長
六十一歳

「ご冥福をお祈りいたします」 経済学部教授 是永 純弘氏

北海道大学経済学部助手、法政大学経済学部教授、北海道大学経済学部教授を経て、平成四年に本学経済学部教授として着任した。本学においては、経済統計学、プロ・セミナール、専門ゼミナールを担当、電子計算機センター長(平成七年四月〜平成九年三月)、経済学部長(平成九年四月〜平成十一年三月)を務めた。その功績に深甚なる謝意を表しますとともに、ご遺徳を偲び、ここに謹んで「ご冥福をお祈り申し上げます。」

三二講義に気分は大学生

大学の講義はさすがに中味が濃い。学科別ミニ講義



見学会に高校生ら

900名がキャンパス体験



開会式・オープニング企画「大学祭できるかな?」=屋外特設ステージ



今年は一九九九年、一九〇〇年代最後の年。また、今年で第二九回を数えた、二〇回台最後の大学祭が、十月九日から十一日までの三日間開催されました。

来年、二〇〇〇年で第三〇回を迎える大学祭を意識して、今回のテーマも「RESET EVE(99 to 00)」という、新たな時代の到来を予感させる、近未来的なテーマを掲げました。二つの大きな節目を目前に控えた今年度の、第二九回札幌学院大学祭実行委員会各メンバーには、「第三〇回のための第二九回

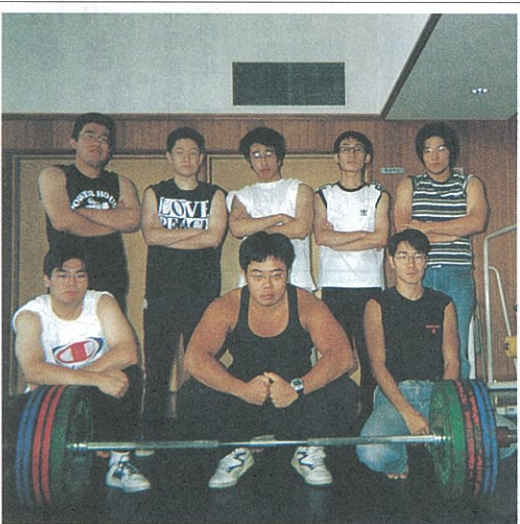
大学祭」と意識させてきました。実行委員の三分の二が一年生という、若いメンバーがそろっていたことで、既存の概念にとらわれることのない、斬新なアイデアが生まれ、大学祭を盛り立ててくれたと思います。

当日は、学生・卒業生・地域の方々が祭りという空間において、様々な姿が見受けられました。諸先輩方が築いてきた「学生・卒業生・地域の三位一体」となった大学祭を、最高の形で表現できたいと思います。

大学祭とは、学生のニーズによって存在するものですが、その存在価値は普遍的で永続的であると思います。諸先輩方からの偉大な功績を継承し、大きな節目の第三〇回を迎える所存です。

最後になりますが、大学祭開催のために、多方面より格別の厚情をいただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

第29回大学祭実行委員会
実行委員長 近藤 義徳



我々パワーリフティング部は、全く異なるスポーツである。部員不足に悩む日々が続いているが、昨年・今年と開かれた「全日本学生パワーリフティング選手権」では、二年連続で全日本学生チャンピオンも輩出している。我が大学においては間違いなく最も大きな功績を残している活発な部である。

ウェイトトレーニングの性格上、毎日厳しい練習を積み重ねる必要がある。要は集中力。一日約九〇分、週三日から四日のトレーニングを自分の都合の良い時間、曜日に集中して行うことによって、腕を太くする者、大きな胸板を獲得する者、体を引き締める者も多



「日本海オロロンライン」トライアスロン国際大会のバイクパート



先輩っていいな。大学生生活を楽しむ秘訣もバッチリ聞けた。



エクステンションセンターで、パソコン操作の基本を習得する。このように本来の目的のほか、情報処理教育施設の利用を通して大学に親しみを持ってもらいたいと開催したものです。

「エクステンションセンター」では、去る九月四日(土)に一般市民を対象とした「パソコン初心者講座」を開催いたしました。これは、地域の皆様をはじめ、多くの方々の強いご要望にお応えしたもので、エクステンションセンターでは、午前九時から午後五時までの間、パソコン操作の基本を習得するという本来の目的のほか、情報処理教育施設の利用を通して大学に親しみを持ってもらいたいと開催したものです。

講座は、「簡単に役に立つ」をコンセプトに、午前の部はワードによる「はがき作成」、午後の部はエクセルによる「家計簿の作成」と二つのコースを用意しました。いずれも受講される方々の関心は高く、どちらも三十五名と定員を超えての受講となりました。熱心にパソコンの手ほどきを受ける受講生。主婦から年配者まで多彩な顔触れが並びました。

エクステンションセンターでは、今後、さらに体制を充実して、このような地域の皆様の要請に積極的に応えていきたいと考えております。

今年発足したトライアスロン同好会は、部員七名で活動しています。

トライアスロンは、水泳、自転車、マラソンを連続して行うスポーツで、「鉄人レース」ともいわれています。本当に好きでなければ続けられないスポーツだと確信しています。

種目はオリンピックデイズタンス(水泳一・五km、自転車四〇km、マラソン一〇km)とアイアンマンデイズタンス(水泳三・八km、自転車一八〇・二km、マラソン四二・二km)に大きく分けられ、競技人口も徐々に増えています。

六月に開催された「ハスカップトライアスロン全道大会」は、「日本学生トライアスロン選手権予選」を兼ねており、経済学部二年の江口靖明が2位で通過し、「日本学生トライアスロン選手権」への出場を果たしました。また、八月には日本最長距離の大会(水泳二km、自転車二〇〇・九km、マラソン四一・八km)である「日本海オロロンライン」トライアスロン国際大会に出場することができました。

北海道の学生のレベルは全国レベルと比較すると大きな差がありますが、さらに充実した活動を展開できるよう頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。

トライアスロン同好会代表
人文学部三年 久村 修一

一九九九(平成十一)年度のキャンパス見学会が去る七月二十四日(土)と十月二十三(日)の二回開催されました。当見学会は来春に受験を控えた受験生や父母、高校の教員の方々に諸施設を見学していただくとともに、本学の入試制度・入学後の学生生活の疑問に答えることを目的としているもので、今年で十二年目を迎えました。本年度の参加人数は、二回合わせて過去最高となる九〇一名で、初めて九〇〇名を超え、遠くは鹿児島県からの参加もありました。当日は、全体説明会に続き、施設見学・個別相談コーナー、そして今年度から新たに学科別にミニ講義を行いました。講義のテーマは「犯罪心理について」「わかりやすいSGU経済」「インターネット英語」など、高校生にとっても興味を持てる内容でした。各学科とも大変多くの生徒が集まり、生徒達はそれぞれの熱いこもった講義に耳を傾けていました。

相談コーナーでは、二〇〇〇年度入試の変更点や各学科の内容を中心とする相談を受け、また本学学生による相談コーナーでは、「推薦入試

合格の秘訣は?」など、受験生ならではの質問も出ていたようです。施設見学においては、図書館、CALL教室、エクステンションセンター、考古学資料展示室などを見学していただきました。高校生たちはそれぞれ経験したことのない施設に大変驚くとともに、「是非このような施設を学生として利用してみたい」との声が多く聞かれました。

受講された方々は、主婦層を中心に二十代から七十代まで幅広い層に及び、時には講師も戸惑う質問が出されるなど、その熱心さには目をみはるものがありました。受講後の感想では、「講座を続けてほしい」「料金が少なくていい」「初級だけでなく、中級上級も開講してほしい」など、講座の継続に対してのご要望が数多く出されました。

エクステンションセンターでは、今後、さらに体制を充実して、このような地域の皆様の要請に積極的に応えていきたいと考えております。

を上げる受け付けを行いました。多くの方々にご遠慮いただきながら、動機は何でも構わない。我々パワーリフティング部員と共に、明るく楽しく激しくウェイトトレーニングに打ち込み、有意義で充実した学生生活、たくましい体を手にしませんか?

パワーリフティング部
人文学部四年 小川 英則

不屈の「鉄人レース」に挑戦

トライアスロン同好会

今年発足したトライアスロン同好会は、部員七名で活動しています。

トライアスロンは、水泳、自転車、マラソンを連続して行うスポーツで、「鉄人レース」ともいわれています。本当に好きでなければ続けられないスポーツだと確信しています。

種目はオリンピックデイズタンス(水泳一・五km、自転車四〇km、マラソン一〇km)とアイアンマンデイズタンス(水泳三・八km、自転車一八〇・二km、マラソン四二・二km)に大きく分けられ、競技人口も徐々に増えています。

六月に開催された「ハスカップトライアスロン全道大会」は、「日本学生トライアスロン選手権予選」を兼ねており、経済学部二年の江口靖明が2位で通過し、「日本学生トライアスロン選手権」への出場を果たしました。また、八月には日本最長距離の大会(水泳二km、自転車二〇〇・九km、マラソン四一・八km)である「日本海オロロンライン」トライアスロン国際大会に出場することができました。

北海道の学生のレベルは全国レベルと比較すると大きな差がありますが、さらに充実した活動を展開できるよう頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。

トライアスロン同好会代表
人文学部三年 久村 修一